

令和元年度 第1回河北町総合教育会議会議録

令和元年12月19日（金曜日）

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷俊雄 河北町教育長 板坂憲助

河北町教育委員 児玉康子 大山直子 丹野正英 和田茂樹

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 岸康彦 生涯学習課長 矢作勲 教育主幹(兼)指導主事 石山勝巳

指導主事 秋葉千絵 課長補佐(兼)管理係長 大泉正博

3 日 程

令和元年12月19日（金）午後1時30分 開会、開議 河北町役場3階・委員会室

1 開 会

2 森谷町長あいさつ

3 協 議

(1) 小学校のあり方について

(2) コミュニティ・スクールについて

4 その他

5 閉 会

1 開 会

○大泉課長補佐(兼)管理係長

ただいまより、令和元年度 第1回河北町総合教育会議を開催いたします。はじめに森谷町長
のご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

○森谷町長

町長に就任して3月に1回、総合教育会議を開催したところではありますが、前回は顔合わせと
いうことでしたが、テーマを持った総合教育会議ということで、今日は小学校のあり方とコ
ミュニティ・スクールについてではありますが、今年と来年で第8次総合計画、まちづくりの大き

な基本方針を、総合計画を基に教育振興計画や環境だとかいろんな計画を作って施策を進めているわけですが、その大元となる総合計画を令和3年度からの10か年の総合計画を作るということで今進めております。振興審議会も3回ほど開催しているわけですが、町民アンケートの結果が大体とりまとめ、1月から3月にかけて、本格的な計画の中身の議論に入ってくる。本日の会議よろしくをお願いします。

○大泉課長補佐(兼)管理係長

それでは3協議に入らせていただきます。これより座長を森谷町長にお願いします。

3 協 議

○森谷町長

協議事項に入りたいと思いますが、私の方から冒頭お話させていただきたいと思います。総合計画の話を申し上げましたが、今の第7次総合計画が10年前に作られました。平成23年3月の計画の中で、教育関係で言いますと、第4章「歴史に学び次代を育む町」というような章立てで、その第1節として「生きる力」を育む学校教育ということで、学校教育については生きる力を育む教育という位置づけであります。幼児教育、小・中学校教育、高校教育、学校給食というのが学校教育の5つの柱になっております。学校教育についてみると、教育委員会として一番大きな部分であります。そこに何が書いてあるのかと言いますと、小・中学校における教育については、生きる力を育むことを目的としております。これは、次代を担う子どもたちが、将来、社会生活を営むうえで必要な基本的な知識を習得することと、これらを活用して課題を解決するために必要な力を育むということです。小・中学校で何を学ばせるのか必要かということが書いてある中で、各学校では、地域の特性を考慮し、児童・生徒一人ひとりの個性を生かす特色ある教育が求められます。また、教育内容の充実を図るとともに、学校施設の計画的な修繕を図る必要があります。ということが記載されております。その中に、基本的施策として、教育環境の整備という位置づけがありまして、そこに、校舎の維持補修の計画的な推進。教育備品の整備更新。図書館の整備図書資料の充実。学校活動でのスクールバスの多目的な利用。いろいろあるんですが、その中に、児童数の減少に伴い、適正・適切な教育活動を保障するため、地域の実態や状況の変化に対応した学区再編の推進を図ると記載されています。学区再編について推進を図るとはっきり書いてあります。そのほかに、教育環境なんですが、教育の質の向上というのがありまして、教職員の方々とか、ふるさと体験学習とか、語学指導助手の招致事業とか、またその中で、今 ICT とかタブレット導入とか教育現場の課題があるわけですが、当時の表現では、10年前ですが、小・中学校のコンピュータを計画的に整備し、その指導者の資質の向上を図り、児童・生徒の時代に即した情報選択能力・情報活用能力の育成等に努めます。というように未来型の ICT によるより良い教育に努めていくということが書かれていま

す。また、学区再編を推進しますと書いてある中で、関係あるかどうかですが、教育の質の向上の中では、各小中学校において、時代的教育課題に対応し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動が展開できるよう、特色ある学校づくり事業を推進します。ということも記載されております。また、前期後期の中間年次、平成 28 年度の後期計画では、小・中学校教育の教育環境整備の部分には 10 年前の計画と同じ文言がそのまま記載されている。あと、現状と課題も同じで、基本的施策ということで、教育環境の整備においては、児童数の減少に伴い、適正・適切な教育活動を保障するため、地域の実態や状況の変化に対応した学区再編のための検討機関を設置します。と 10 年前より踏み込んだ書き方になっております。これを受けて「小学校の将来を考える会」が平成 29 年度に設置されたと理解しますが、一定の整理がなされ、そこでは学区再編、統合を進めましょうとかそういう整理ではなくて、いろいろな意見もあるし、メリット、デメリットもある。との考える会の整理だったと私は受け止めております。そういった中で、今年と来年度、新たに総合計画を作る必要があるわけですが、その中に、小学校のあり方なりをどう書き込んでいくのか、当面私の中で問題意識を持っているところであります。8 月に町民アンケートを実施した時に、小学校の「学区再編についてどう思いますか。」という設問を設定しようとしたが、各委員から、今までどのように検討しているか、平成 29 年度の小学校の将来を考える会でどのように整理したかということをきちんと説明してない中で、いきなり小学校の学区再編のアンケート項目を出すと混乱が起きるんじゃないかとの意見が多数を占めまして、アンケートからは削除した経過があります。いずれにしても、8 次総合計画でどういうふうに整理していくかということになりますので、しっかり検討しなければならないが、いきなりアンケートということは、ちょっとマイナスが大きいのではないかと見送った経過があります。8 次総合計画のアンケートの結果がまとまりつつありまして、教育に関連して多いのは、通学に関して、高校生になりますが、通学の足となるバスが不便であるとか、保護者の送迎の負担が大きい、といった意見が多かった。「児童生徒の健全育成のために何が必要ですか」の設問で、一番多く寄せられたのが、いじめや不登校対策 55.9%、放課後を過ごすための環境づくりの推進について、放課後学童クラブとかいろんな形で学校と連携して充実してほしい 36.1%、その次が学力向上目指した教育 16.5%、スポーツ活動の充実、子どもの遊び場、登下校時の安全対策、食育、学校設備の充実などこの辺で 10%を切るぐらいの感じになっている。また、今回のアンケートでわかったことだが、10 年前は、3 世帯の家庭が一番多かったわけですが、今は、2 世帯家庭が 3 世帯家庭を上回った。親子で暮らしている家庭が多くなってきている。子育てに関するニーズが多いんですけど、ゼロ歳児保育、延長保育とか、やっぱり考えられるのは働いてらっしゃるお母さんが非常に多くなってきている感じがします。そういったことも背景に考えて、今後 10 年間を見通していく中で、労働力も減ってますし、少子高齢化、人口減少が進んでいる中で、活力を維持していくうえでも、働く女性はこれからもますます増えて

くる、核家族化も進んでいくだろうし、これからの子育てや教育の環境は、本当に重要なテーマだと思う。ここ10年後ということを考えた場合に、これは教育だけでなく、町職員全員に言ってますし、町でいろいろお話する機会にも申し上げていますが、団塊の世代の方々が、70ちょっと超えたぐらい。5年後には75歳ということで、高齢世代になってきますので、国においても、大きな問題となっています。10年後となりますと、その団塊の世代の方は80歳を超えます。健康づくりをしながら、如何に元気な高齢社会を実現するかということも大きなテーマなんですけれども、それに向かう中で、人口減少を含め、高齢社会についてしっかり考える必要があると思っております。それが一つです。あともう一つは、これから10年後の小中学校ということを考えるうえで、移住とかUターンとか、そういった政策をしっかりとやっていかなければならないと思っているんですけれども、如何にして人口の社会減を少なくするか、住み続けてもらうか、或いは河北町を出て行った人にも、いずれ結婚する時、子どもさんが学校に入る時、それぞれ人生の転機があると思いますけれども、その時、生まれ育った、或いは、おじいちゃん、おばあちゃんがいる、或いは、友達が多くいるとか、大好きな河北に戻ってきたいという人を如何に育てていくかという課題が、これからの教育に関わってくると思う。いずれにしても、移住対策も非常に大きな課題なんですけれども、その前提として、どれだけのお子さんが今生まれる状況にあるかということで、今まで大体120から130人、少子化といわれる中で生まれていたんですが、それが去年、平成30年度4月から3月までに生まれた子供さんが、初めて100人をきって98人だった。私は、この数字は一時的なものと期待していましたが、今年度もかなり厳しい状況にあるようです。こういう現実の中で10年後の学校のあり方というものをどう考えるかということは大事なことだなというように思います。少子化が進んでいく中で、少子化だけが学校教育のあり方に直結する全ての課題ではありませんし、いろんな教育の内容面での課題もありますし、いろんな角度から検討する必要があると思いますので、そういった意味で、これまでの10年間の取り組みのうえに立って、これからの10年どういうふうに学校を考えていく必要があるのか、小中学校のあり方、或いは、小中学校の教育、環境整備というものをどうしていくか、非常に大事になります。7次総合計画で学区再編について推進するという明確な表現になっている中で、その後、少子化が加速している。当面10年間を見通した場合、もっと深刻な状況が想定されると言わざるを得ない中で、深刻になっている少子化をどう食い止めるかという課題も大きいのですが、減っているという現実を考えると、7総と同じ考え方でさらっと書くというのでは、ちょっと無責任かなという気がします。少子化がますます進んでいる中で、今後の教育を、或いは小学校のあり方の方向づけを、これからの10年間で考えていかなければなりません。環境面でもそうだし、教育の質の面でも、どうしていく必要があるか、きちんと、7次総合計画よりもしっかり書き込む必要があると思っております。今回アンケートには無かったわけなんです、学区再編について今のままで行くべきだという意見も聞きます。一方、子どもたちが

毎年毎年減っているという中で、どうするんだ。このままでいけるのか、という声もあります。8次総合計画において、町としてのこれからの教育、小中学校のあり方について、現状認識、課題認識をしっかりと整理していく必要があると思っています。そういったことで、今回アンケート調査を見て思ったのは、10代の高校生、或いは20代30代の若い人、40代の子育て世代、年配者の方も含めて、共通している大きい関心は、バスとかデマンドタクシーとか、地域の足を何とかしてほしい、安心して教育を受けるためにも、安心して医療を受けるためにも、公共交通を安心できるものにしてほしいという声が、各世代に共通している。河北病院が問題になっておりますが、医療費が増大していく中で、医療についていろんな動きがありますけど、高度な医療も必要だけれども、身近で安心して受けられる医療、医療機関に通える足が必要。あと、子育ての環境、高校生になると通学へ負担を何とかしてほしい。そういった意味で、町の賑わいとか、移住定住対策とか、働き場の確保とか、いろいろ課題はありますけれども、教育と医療環境というのは、大事な政策だなと思っています。当面8次総合計画に向けて、学校教育のあり方、小中学校のあり方、小学校がクローズアップされておりますが、中学校の教育とも密接に連携する必要がありますし、谷地高も学級減少がありますが、義務教育と高校の連携、地域の特色ある学校づくりの繋がりについて、河北町に誇りをもって学べる場をつくって、子どもたちに巣立ってもらいたいという思いもありますので、8次総合計画の策定に向けて、教育委員のみなさんから議論を深め、整理していただければと思います。教育長から事前に貰った資料の令和元年度第6回教育委員会会議、第6回校長会、教務主任会を読ませていただきましたが、私の認識とさほど違いはないようです。ぜひ皆さんにはですね、子どもたちの教育を第一に考えて、小学校、中学校教育の環境と教育の内容を研究していつて、そのためにどういった小中学校であらなければならないか、今後の十年間に繋げていただけるような議論を深めていただければと思います。

○板坂教育長

町長からのお話を受けまして、協議1を私の方から説明します。小学校のあり方について、教育委員の皆様には、2回ほど協議させていただきました。2年前の小学校の将来を考える会を踏まえて、これまでの取り組み、これからの取り組みをしなければならないと考えております。その時の小学校の将来を考える会がどのようなものだったのかを振り返ってみたいと思います。ここにありますように、平成29年10月に第1回目が話し合われております。その時には、学校規模の適正化、河北町立小学校の現状についての説明について話し合われております。第2回目は、平成29年の12月に行われております。その時は、かつて、平成27年の河北の教育を語る町民会議とか、平成28年に行われたアンケートの分析を基に、将来の小学校のあり方についての意見聴取がなされております。そして第3回目最後ですが平成30年の2月に将来のあり

方について意見聴取が行われております。その考える会は、15人の委員で構成され、各地区から選出された方、学校に関係のある方や保護者或いは今から保護者になる方などとなっております。その話し合いをまとめますと、①統廃合に対する意識の醸成が図られるまでは、統廃合は難しいということから、地元から統廃合に対しての要望、意見をいただくまでは、小規模であることのメリットを生かし、児童への教育を行うこと。そのうえで、意識の醸成を行政として、どう図っていくかが課題である。②小学校の適正規模・適正配置について、町民への周知を図ること。2つの観点でまとめられております。これを受けまして、8次総合計画に向けたきっかけポイントとして①これからの各小学校における人口動向についてですが、調べてみると、やはりこのままではいけない。ある時期には危機感を持って将来のあり方を具体的に考える時期があるんじゃないかということ。②完全複式を迎えたとき。完全複式とは、今の谷地西部小学校で言えば、1年生一つです。2年生一つです。3、4年生複式、5、6年生複式で、全部で4学級になります。それが、1、2年生も複式で全部複式になることを完全複式となります。そういった状況になったとき、町内にある学校がそういった状況になったときに、真剣に考える時期ではないか。③集団としての機能が支障をきたすようになったとき。④地域住民や保護者から統廃合に対しての要望が出てきたとき。以上のようなときであります。あわせて、適正規模がなぜ良いのかを保護者などに説明していく必要がある。と同時に、学校は地域のコミュニティの核として防災、保育、地域の交流の場としての機能を併せ持っており、児童生徒数が少ないからといって安易に統廃合を行うことはでない。そういうことが言われております。こういったことを踏まえて、これまでもこれからも地域の実態を十分に考慮した方策を検討し、保護者や地域の住民と丁寧な対話を通じて、あるべき小学校の姿について合意形成を図っていく必要があると考えている。2ページをご覧ください。前年度に生まれた子どもの数が98人、10年前、今の6年生が150名ですので、12年で3分の2になっている。令和元年から令和12年までの今度の8次総合計画において、令和12年度には98人の3分の2まで減少するんじゃないかということが予想されます。社会動態を無視した自然動態で死亡も考えないでそのまま成長していった場合の想定したものです。3ページをご覧ください。そういった数値を基に、小学校ごとにクラス編成の状況を整理したものです。令和元年から令和7年までということで、今年度は845人、それが令和7年には、733人になります。733人というと県内では西村山管内ではありませんが、一番大きなところでは、寒河江中部小学校が550人くらいから600人の間です。河北町では、谷地中部小学校が370人から380人ということで、そういった規模になります。複式学級になる可能性であります。北谷地小学校が令和6年に1・2年が

複式になる。そして、令和7年度には、西里小と溝延小が、1年生が入ってくる数によっては、複式学級になる可能性があります。ですから令和7年度には、西里小、溝延小、谷地西部小、北谷地小が複式学級を抱える学校になります。6校のうち4校が複式学級を抱えることになります。参考までに、適正規模は谷地中部小学校だけになります。このような児童数の推移を踏まえまして、同じような説明を基に、教育委員のみなさまには9月26日に、校長会には10月2日に、教務主任会議には11月14日に話し合いを行っております。まとめますと、それぞれの意見があり、何校にするか、このままで良いとか、さまざまな意見でありました。教育委員会議では、大山委員がご存じのように町内の半分の小学校、谷地南部小、谷地西部小、溝延小、北谷地小の4校を回って英語の指導をなさっているわけですが、谷地西部小の子供たちの様子を見て、良い雰囲気だと感じているようです。お兄さんお姉さんがいて、その下学年に教える姿勢。学ぶ姿勢がきちんとなされている。あと、いろんな行事にしても小さな学校でありながら、大きな感動を与えるような学校だと感じておられます。和田委員は、一番大きい谷地中部小学校のPTA会長さんをなさっているわけなんですけれども、注目に値するのが、多い人数の中で、子どもの居場所を自分なりにきちんと見つけて暮らしている。人間関係の中で、自分で選んだりしていることが訓練され、そういったことが中学校へ行ったときに、役立っているのではないかと。そういったご意見をいただきました。石山主幹は、大人になってからも戻ってこれるような子どもの教育が大事ではないか。といった意見がありました。校長会においては、注目すべきところですが、丹野校長ですけれども、丹野校長は西川町に勤務なされていて、自ら6つあった学校が1つの学校になる時代を教育委員会で経験なさっている方です。一緒になる前に、適正規模を進めようとしても、なかなか理解されない。新しい学校に入ってから、或いは友達が増えて、良かったという子供の声で理解が図られたといった意見がありました。あと、小中一貫教育、小学校一つ、中学校一つになりましたので一貫校教育の良い面を述べておられました。校長先生方のご意見は、今年1年間、コミュニティ・スクールについて研修を積んでおりますので、コミュニティ・スクールと絡めての学校再編、統廃合に対する意見がおおよそを占めておりました。井上校長がまとめておりますが、スケールメリットで、人数が少ないからだけでは反発を受ける。統合することによるメリットを広げる。小中連携や各学校間の交流学習の良さを広める。コミュニティ・スクールを進める中で理解を図るというように校長会ではまとめられております。教務主任会でもさまざまな意見がありました。目を引いたのは、1小学校1中学校でもよろしいのではないかと。といったご意見もありました。学校経験者の方々から専門的な意見を聞いたところでもあります。このような意見を踏まえながら今後、河北町の

小学校のあり方について、8次総合計画に向けたご意見をいただきたいと思います。

○森谷町長

教育長から話されたことも含めて、私に対する質問でも結構ですし、教育長が説明あった点でも結構ですので、確認したいこととか、或いは、これはどうなんでしょうか。といったことがあればご意見をお願いできればと思います。

○児玉委員

いろいろお聞きして、例えばこの将来の小学校のあり方を考える会議の位置づけというのは、どれぐらいの重みがあって、結論というか諮問して答申してといった中身では無いと思うのですが、この会の重みをどう受け止めたらいいいのかというのが1点です。あと、校長だったり、教務主任だったり、いろんな会議の資料が出てきたんですけれども、大元のところはどう進むんだというのは何となく、人数が減って統廃合するしか無いようなイメージの話し合いで進んでいるような印象を受けるんですが、私たちはこれに対して、自分は例えば統廃合はこういう意味で反対だとかいってもしようがないレベルなのか。どの話し合いのレベルで私たちがこの意見を述べたらいいのか。分かりません。そのあたりはどう考えているのでしょうか。それも含めて率直でいいのか。それとももう、このあり方を考えるという会の趣旨なりを受けて、それに向けてどう進めたらいいのか、8次総合計画にどう盛り込んでいったらいいのか出せばいいのでしょうか。ちょっと、話し合いの方向が見えません。

○森谷町長

少なくとも、今の時点で、今の小学校の状況、或いは、何年後かに河北で学ぶ子ども達の今の出生状況とからみて、その中でもみなさん言われてますけど、今のままで良いということではないんだろうなという認識は一緒だと個人的には受け止めています。それがいつなのかは別として、いずれ、資料にもありますように、完全複式を迎えたときというのは、大きなポイントとなってくると思いまし、或いは、集団としての機能が支障を来すようになったとき、というのがありますが、私には、集団としての機能というのはどのような意味合いなのか良くわからない部分もありますが、また、完全複式が教育上どのような支障になってくるのかという点も、確認したいところもありますし、地域の方や保護者からの学区再編に対しての要望が出てきたとき、とありますが、要望のあり方もありますよね。今の段階で、学区を再編して大きい集団の中で子どもを学ばせる必要が出てくるんじゃないか、というような意見をいう方もいるし、いやいやいやという人も非常に多いです。その中で、地域の方や保護者、町民の皆さんが一致した要望になる時期は現実的にあるのかということもありますし、何をもって要望なのかとい

うこともあるかと思います。ただ、町長としての立場で、教育費にできるだけお金をかけたいと思いますけども、人口も減っていく中で、どこに教育費の重点をおくか、環境なのか、教材なのか、先生方の教える力をアップするお手伝いをする事なのか、いろんな施策はあるかと思いますが、あと、学校の維持費というものも大きいですから、如何にマンパワーと資金を投入するか、教育といってもいろんな分野がありますし、小中学校でもいろんなところがあるかと思います。マンパワーを増やすために先生たちを補完する助手的な方や、いろんな専門的なスタッフをアシストするような体制を組んだ方が良いとか、教材をもっと充実した方が良いとか、もっと良い環境、良い学校で学ばせた方が良いとか、そこは、子どもに対する教育というものを第一義に考えて、河北町として子どものためにどういう学校を考える必要があるのかということが大事であるかと思います。児玉委員の質問に直接答えられないんですけれども、私としてはいずれにしても、小学校のあり方についての議論は、避けて通れない問題だという認識は、考える会でも、或いはその後の教育委員会議の中でも、或いは校長先生方の議論の中でも、或いは教務主任の意見の中でも、大方共有されており、今後、いろいろ検討していく中で、或いは地域の声なんかをフィードバックをしていく中で、保護者の声も含めてなんですが、10年間の中でいろいろ検討してきた整理、考える会の整理も重要だとは思いますが、これで全てかということもありますし、10年前に書いた学区再編を推進するという考え方を踏まえ、10年間やってきたこと、議論されてきたこと、これまでその後のいろんな変化が10年間あると思います。この10年間をどう総括して、これからの10年間を見据えた課題というものを今回どういうふうに整理したら良いかということ、教育現場に立たれた、或いは保護者として、或いは町民として感じている、現状認識と10年間の総括、今の立ち位置での課題についてどう整理するかということを皆さんに議論整理してほしいということです。学区再編の推進にいく前に、これからのテーマにありますコミュニティ・スクールとか、いろんなアプローチも今後続けていかなければならない、その中で更に、今の学校での教育、先ほどの教育長の言葉を借りれば、当面、学区再編を前面に出す立ち位置にない中で、如何に今の6つの小学校でできる良い教育をどうやって今後やっていくのか。併せて、10年先を見据えた課題を議論し整理していかなければならない。私は、子育てをした親として、当事者として、小学校中学校時代を河北町で学んだ身として思うのは、学校って、私自身が学んだ中での先生とのふれあい、先生の影響というものは大きいし、先生も多様性があつた方がいろいろな出会いがあつたり、或いは、非常に近い関係で育ててもらったとか、いろいろあると思うし、友達も、ほかの学年とお兄さんお姉さんの関係のある中で育まれるようなリーダーシップもあるでしょうけれども、私たち

の時代だと、小学校も3クラスあったり、中学校だと7クラスあって、クラス替えというのがあり、それが一つの緊張だったり、また友達関係やクラスの構成が変わったり、それをよしとみるか、ずっと同じ学級で育った経験が無いもんですから、小規模校のメリット・デメリットを体験していない。そこは、専門的な立場、多様な見方から、学校の教育の場の中で教育の質を上げること、小規模校のメリット、デメリットも含め、小学校のあり方を議論していただきたい。

○板坂教育長

今、児玉委員から指摘あった点は、「なるほどな」というように思いますけれども、7次総合計画がスターとするときも、同じように10年後の児童生徒数の減少に危機感を覚え、学区再編の推進を図る。と、非常に前向きなことで目標を立ててるわけです。ところが、蓋を開けて実際取り組んでくると、話し合いを持ったけれども、そのダイレクトに学区再編をどうするのかというような話にはならなかった。あと、先ほど説明した、平成28年のアンケートの項目を見ても、学区再編とか、統廃合についての質問は全然ない。非常にデリケートな問題なんだといえると思います。どういうこの会の立ち位置なのかということですが、教育委員のみなさんは、私も含めてですけれども、各小中学校をまず見ることができる。その各学校を見てるということは、児童生徒の活動の様子であり、先生方の様子でもあります。そういったところから、ほかの人よりも幅広く、ご意見をお持ちではないのかなと思います。あと、我々こういう問題を出したときに、最初から統廃合ありきではすごい非難をあびると思います。こういった経験も踏まえて、どういう進め方をしたら地域住民、教育行政として納得を得られるか。これが一つ目だと思います。あと、二つ目、アンケートにしても、どんな項目がいるのかそういったところのご意見。あと、学区再編というけれども、様々考えられるわけです。例えば、谷地南部と谷地中部の学区再編、元泉地区の学区再編、いや、そういうのでは無く、町を3つくらいに学区再編するんだとか、そういった考えもあります。子どもにとって一番良い学区再編でどういうものなのか、ということがあるかと思います。幅広いご意見と地域住民からご理解を得られるような進め方が問われます。そのために、令和何年度は複式がででくるとか、令和何年度にはこれではちょっと学校として大丈夫なのかなとか、或いは、そういったことを見据えて、町民会議を立ち上げなければいけないとか、アンケートをしなければならぬとか、新たにもっともっと、実動する検討委員会の立ち上げとか、そういったことが考えられんではないかなと思います。この辺も含めて、ご意見をいただきたいと思います。

○森谷町長

私としては、町の総合計画の策定もありますが、小中学校教育、義務教育、本町教育のあり方、そのための環境、教育の質、どういう子供を育てたいか、教育のこれからのあり方ですので、みなさんにお願い

したいのは、教育行政について一番権威のある場は教育委員会とっております。総合計画については、最終的には振興審議会の議論になりますけれども、その前段として、考える会での議論、校長会、教務主任会、或いは各学校での保護者とのいろいろなコミュニケーションとか議論とか、学校の中での学校運営に対する議論とか、そういったことを教育委員会としていろいろ持ち寄って、教育委員会での議論というか、過去 10 年間でどう総括し、これからどういうステップを踏みながら、学区再編統合ありきではなく、どういう小学校像、中学校像を描き、今後 10 年を考えていく必要があるとかいうことを整理し、それを、審議会に投げかけていただきたい。教育委員会として整理していただいた内容がこういうことです、それを踏まえて、総合計画ではどう示すのでしょうかというような整理をお願いしたい。もう一つ、学区再編というものが直面するタイミングがどこにあるのかということを想定するとき、学校の改築の時期が何時くるかということも見据えていく必要があると思います。今年来年度、長寿命化計画を作るわけですが、それも踏まえて、今のままの教育を想定した施設改築で良いのか、或いは、その先を見据えた施設を考える必要があるのかしっかりと検討する必要があるのかなと思います。

○児玉委員

だいたい流れがわかりましたので、意見として言わせていただきたいのですが、先ほど、町の方の 8 次総合計画のための話し合いのところに、アンケートが無かったとおっしゃって、そこに実は、小中学校のあり方について入れようとしたら、そしたらダメで入っていない。そのために教育について何か出てきたかというときに、高校生の通学の問題と、幼稚園の子供たちが思ったところにみんな入っていけない。幼児教育の問題とそういうのがでてきたんです遊び場が無いとか、すっぱり小中のところに何一つ出てこなかったということは、やっぱりあの項目が無かったからだなと今更に思います。これから、学校のあり方を考えてもらいたいというのであれば、そういうみんなで考えていかなければならないというような意識醸成をしていく、そういう何かがどこかで必要なんだろうなということは思います。実は私の手元に寒河江市の学校のあり方に関するアンケートというのが今年の 11 月に出てきたのを持っているんですけども、単独のアンケートで、寒河江市立学校のあり方に関するアンケート調査（依頼）ということで、保護者各位とあり教育課長名で配られてきております。これには既に、お子さんの通学する適正配置のためとか学区の見直しなど適正配置の検討が必要ですか。必要だと思いますか。次の選択肢から該当するものを選ぶ。必要、必要でない。その他。というように出てきているんですね。こういうのを見てくると、もうなんか思い切り保護者に意見を聞こうとしているんだなという印象を受けたんです。そこまでストレートには河北町の場合は出ないとしても、例えば、みんなで考えていかなければいけないとすれば、考えるための何かきっかけを

与えないと、話し合いにはならないんだろうなと思う。この間のアンケートはちょっとしたチャンスだったと改めて思いました。というのが一つと、あと、統廃合については考えに立って、I C Tだったり、不登校問題とか、いじめ問題とかそういうのが今課題として町民の人が捉えているとすれば、逆に、そういう I C Tだったりを使える子を育てるんだという良さを生かす学校のあり方を模索していくと、小さいとこ大きいとこという以外に特色が出せるような学校教育のあり方みたいなものを目指して、それでも適正規模というように逆に持って行った方が良いのではないかと思います。今の地域コミュニティの核という考え方から行くと、この形を崩せないし、大事にしたいという思いと、課題意識もあります。

○森谷町長

適正規模というのは私、児玉委員の意見を聞いていいと思ったのは、一般論ではなくて、わが町の小
学校の適正規模って何なんだ、というところを是非みなさんに議論していただきたいなということでもあります。全く同感です。

○大山委員

私今、溝延、谷地西部、谷地南部、北谷地をAETで英語活動として回らせていただいております、
集団としての機能が支障を来すような状況は来ていると思っております。先生が足りないだけではなくて、
私たちが学んだ時の学校の先生と、今の先生ではちょっと違う。今いろんな家族の形態とかあって、
先生は先生だけでなく、時には親の役目もしなくちゃいけない。兄弟の役目もしなくちゃいけない。友
達の役目もしなくちゃいけない。そして大きいのはカウンセリングもやらなくちゃならない一人の先生が、
いろんなことをしなくちゃいけない。そのほかに、いろんな事務作業、運動会とか、天手古舞なんだなど
私は思っています。例えば谷地南部小学校でいうと、ゴールデンウィーク明けに、フィリピンから転校生
があつて、そうすると、一言も日本語をしゃべれない子供が来たので、何もわからなくて来て、どうしたら
いいかわからなくて、担任の先生、校長先生、教頭先生、教務の先生はじめ一緒に真っ暗なトンネル
の中に手繋いで入ったみたいな感じになって、でも、フィリピンから来た子どもは喜んでいて。それだけ
が救いみたいなのところはあるんですけども、そうではなくってやっぱり、河北町独自の教育の整備とい
うものがあるのであれば、備品だとかそういうところも大事だとは思いますが、先生の充実、カウンセラー
を配備するとか、あとは、来年度から南部小学校は2人先生が減ると、考えてみると、有休をとれる先生
が誰もいなくなってしまう。外国人のサポートの先生がいるのであれば、県とかにもぜひ要望していただ
きたい。あとは、落ち着かないだけではなく、とにかく騒がなくちゃいけない子どもが増えてきており、先
生が落ち着かせるには授業がストップするわけですから、そのクラスには先生しかいませんので、そう
いった意味でもサポートの先生をきちんとつけていただくようお願いしたい。そのクラスがきちんと45分

ないし 50 分の授業ができるようなクラスにしてほしいと思っています。

○森谷町長

教育委員会でしっかり議論していただきたいというのがそこなんですよね。数合わせで小学校の規模とか学区のあり方を検討するというのは良くて、どういう教育をできるようにするためにこれぐらいの規模の学校がほしいよね。或いは、先生たちの体制を組むうえでも、国とか県に、さんさんプランを入れたように、発達障害のお子さんとか、外国からのお子さんとか、町として如何に、そういう方に行政サービスを提供できるか、あと、地域としての受け入れ態勢の環境整備をしていくか、教育も含めて、いろんな課題があるので、単に生徒の数が少なくなる、問題の発端は少子化の中でどういう学校、どういう教育をするかですけど、おかれている教育の現場、或いは、これからの教育が直面してくる問題、単に数だけではなくて、やっぱり教育の質に対して、どう対応していくか、どういう学校にしていくのか、その議論のうえに立って、河北町の教育での適正規模なり、小学校のあり方、そして、中学校とのあり方、ということだと思います。

○大山委員

外国から人が来るということは、いずれそういうふうな国になってくるんだろうと思うんですけども、配慮が必要になってくると思います。私、主人の仕事の関係で、11 年間ハワイで暮らしてきましたんですけども、びっくりしたのは、医療機関、この辺でいうと、河北病院とか眺葉園とかで働いている人の 9 割がフィリピン人だったんです。町としても、教育だけではなくて、いろんなところでの対策とかを打っておいた方が、来た時にびっくりしなくていいんじゃないかと思います。

○森谷町長

ありがとうございます。丹野委員いかがですか。

○丹野委員

小学校の統合なんですけれども、私が中学校に入るとき、統合なったすぐだったんですけども、その当時の、河北中学校にするときの、どういった経緯でできたのかなというところが大変気になりますし、座談会とかアンケートとかいろいろやって、決まっていたものなのか興味があります。それに関係してなんですけれども、河北中学校になったときの、私、第 4 回卒業なんですけど、家の姉が第 1 回の卒業生で、ちょうど、初めて入った 3 年生だったんですけども、その 39 年生まれと 38 年生まれの考え方が、非常に違うんですね、統合なった姉の考え方と、一つ上の学年の考え方が、今になって町に対する考え方が違う。本当に、溝延だけを考えている方に偏っているのと、西里、北谷地、南部の方といろんな商売に結び付けている方もいるし、メリットってあるのかわからないですけども、統合したデメリットって無かったんじゃないかなと思っています。河北町中に友達もいますし、ただ、そのやり方というのは、地

域でどう盛り上げてきたのか気になります。それから、先ほど、第8次総合計画の話があったわけですが、地域住民や保護者から統廃合に対しての要望が出てきたとき、とあったんですが、溝延のいろんな会合に出ていると、小学校の今後についてみんな話をするんです。子ども少ないんだげどどうなるんだ。統合なるんだが。話は頻繁に聞きます。資料の数字をみなさんご存じない。今後、どうなっていくかという数字が、こういう数字を具体的に出して説明を受けると、考え方が変わると思う。漠然と子どもが少なくだけで、何も情報もない中で話をしているので、今後出して、小学校を考える会をもう少し広く深くやっていってもらって、現状の数字を出してほしい。そのうえで、将来どうしたら良いかということ、地域で考えてもらうということも大切なことになってきているなと思います。統合してほしいと言っている方もいらっしゃるし、年配の方は、学校無くしたらダメだ。地域が無くなってしまう。溝延が無くなってしまうという方もいる。ただ、統合しなければならないという方は、スクールバスでどんどん運んでもらって、親には負担ならないし良いんじゃないのという方もいらっしゃいます。どういう立ち位置でスタンスで、小学校を考える会があるのか、というところをもう少し検討していただければと思います。

○森谷町長

ありがとうございます。私も、いろいろ各地区の小学校の運動会とかいろいろなところに行って、運動会の様子も違いますし、保護者の方々からでてくる反応も違います。昔の1学年くらいのがだいたい今の6学年の数になった。今、丹野委員がおっしゃったように、きちっと共通の現状認識に立って、それを悲観的に捉えるか現実だと捉えるか、いろんな受け止め方があると思うが、しっかりしたデータをお示しながら議論していただいた方がいい。児玉委員と大山委員の話に戻るが、データを示しつつ、教育の現場なり教育委員会として考える会の意見も踏まえて、教育の観点からいろいろ現状の中で、地域の人は地域の人の考え方でいろんな考え方は出てくるわけで、保護者の考え方もあるでしょうし、教育を預かる教育委員会としては、こういうデータを見ながら、こういう議論をして、結論急ぐわけじゃないですけども、河北町としての適正規模、或いは、教育のあり方について、今直面している課題、大山委員から出されている課題も含めて、こういう課題もある。数字的にはそういう現実がある。その中で、数合わせや規模だけのところにいくのではなくて、そういう課題も踏まえて、規模なりも適正規模というものを考えていく必要がある。数年後は、複式学級も入るような状況もある中で、将来中間地点で、もう少しそこまで議論を重ねていく、或いは、コミュニティ・スクールで、小中の一貫教育とか、どうつないでいくか、ということも見据えて、こういう立ち位置でみんなで考えていこうというような整理もありかなという気はするんです。丹野委員がおっしゃったように、河北中を統合するときに、どういった議論をし統合に踏み切ったのか、そして、西川の例にもあったが、結果的に新しくなって、統合する前は不安感が多い中ではあったが、議論をして、統合に踏み込んで、結果的に乗り越えて、良い結果が出てきた。河北中統合時を

検証しながら学べることがあれば、小学校と中学校はまた違うかもしれませんが、そのまま参考になるか別として、河北中の時、どういった議論をして、どういう形で乗り切って、どういう形でメリットが出てきたか、デメリットを引きずっているものがあるのか、ひも解いた方がいいような気がします。ありがとうございます。和田委員お願いします。

○和田委員

小規模校は小規模校でメリットはあるし、大変だなというところもいっぱいあったわけですが、家の子どもは谷地中部小に通って、大きな学校で谷地中部小も年々児童数が減ってはいるんですが、谷地中部小の保護者の方は、人数が減っていることに対してはそんなに危機感が無い。小規模校の保護者の方は、危機感の意識を持つ方が多いと思うので、アンケートでもみなさんの意見を聞きながら、みなさんの不安を解消するための検討なんだというものも含めて話を進めていかないと、本当にデリケートな問題だと思うので、みんなが納得というかやって良かったとなるような進め方をしていただければと思います。焦らず、時間が迫っている問題ではあるんですけども、じっくり慎重に審議してという思いです。

○森谷町長

ありがとうございます。第7次総合計画を踏まえて、その後どうように整理して、単に少子化で児童が少なくなる中で、どう考えるんだというような短絡的なものでなくて、そういう環境の中で、どういった教育を目指していくかという議論を行い、仕切り直しになるか、新たな視点になるのか、また、国際化とか、ICTとか、いろいろな状況、教育環境、光の部分も、影の部分も含めて、いろんな課題が出てきている中で、規模の問題も含めて、質の問題、或いは、スタッフの充実の問題も含めて、これからの10年後を、或いは、20年後の将来に向けた小学校をつくっていくために、こういう議論をしっかり積み上げて、決めていきましょうよというようなメッセージでも良いと思うんです。議会でも、学区再編について、町長どう考えているのかという質問があった。私は、議論することをタブー視してはならないと考えていると答弁しました。現実的に直面している問題もあるし、でも議論は丁寧に進めていかなければならない。今時点で方向性は持っておりません、と率直な感想、気持ちを述べました。小学校のあり方のところは、さらに議論の場を、また、総合会議、みなさんが許していただけるのであれば継続していければと思います。それでは、引き続きコミュニティ・スクールについてお願いします。

○石山主幹兼指導主事

冒頭にありました10年前の学校教育で言いますと、地域に開かれた学校づくりを進めたり、特色ある学校づくりを進めてきたわけですが、例えば、学校教育の積極的な情報公開をしたりとか、学校評価を取り入れたりとか、学校評議員制度を設けたりしています。特色ある学校づくりで言いますと、今でも、地域の人的物的支援を学校教育に取り入れてきた経緯がありますし、

今でもそうなんですが、これからコミュニティ・スクールを始めたいと考えているのは、まず、一番に、これまでの財産ももちろん積み上げを生かしながら、教育を新しくしたいと考えているのが、社会に開かれた教育課程の実現です。これまでの、地域に開かれた学校づくりは、教育課程の中では無くても、特色ある学校づくりを教科書の内外において、進めてきたんですけども、教育課程の中で、授業の中で、社会に開かれた教育課程の実現を目指していきたいというでのコミュニティ・スクールの設置を進めていきたいと思っております。学校評議員制度ですと、校長の意見の校長の求めに応じて意見を述べていただいて、その意見を基に、学校の中でどういった教育を行っていくかを検討してやってきたわけですが、コミュニティ・スクール、つまり学校運営協議会立ち上げるということは、学校の運営を承認していただくことになります。合議制の会議です。学校評議員制度は、合議制ではありません。合議制の会議になりますので、おおよそ10人以内のメンバーで構成したいと思っておりますが、その合議制の下で、当事者意識を持っていただきながら、学校教育について、運営を承認するということで、共同で、子どもたちを育てるビジョンを持っていただいて、共同で、学校教育に携わっていただきたいというのが、コミュニティ・スクールです。委員の皆様の中に、是非ほしいのが、コーディネートの役目をする人です。これまでコーディネーターと呼んできた、学校支援本部事業で入っております、生涯学習課にいらっしゃる方もコーディネーターと呼んでいたわけですが、今では推進員と呼んでいるんですけども、その推進員の方を各校にも配置して、7校でコミュニティ・スクールを設置したいと考えております。その方の活躍により、例えば、学校に人を呼んだり、或いは、子どもたちが学校の外で活躍できたり、という人的物的なつなぎ役の仕事をやっていただきたい。というのが、先ほど大山委員から話の続きでもあります。教員がやってきたコーディネート業務は、結構、授業の関係するものがもちろんたくさんあるんですが、授業以外でも授業の中でも教員に代わって、コーディネート業務をしていただきたいという人も、推進員の中に含めたいと考えています。それがどうしても欠かせないのが、地域学校協働推進事業でありまして、これは、放課後子どもプランが始まってから考え方がずっと続いているわけですが、社会教育サイドと手をつないで連携して学校運営協議会を立ち上げていきたいと考えております。これからいろんなところで、コミュニティ・スクールのお話をしていきたいと考えていますので、スケジュール（案）も書いてみたんですが、来年度1年間かけて、7校で学校運営協議会が立ち上がるように準備を進める。つまり、誰が推進員として相応しいか、どういったメンバーで協議会持つのか、来年1年間かけて行っていく。学校の運営の承認を、来年度からしていただくところがスタートしてはどうかと思っているところです。来年度予算

要求に係るものとしては、検討委員会の委員報酬のみです。来年度に向けて、規則関係を整備して、組織立てをする意味で学校運営協議会を始めたいと考えているところです。

○森谷町長

今、主幹から説明あったことについて、みなさんからご質問などいかがでしょうか。

○児玉委員

これは、全て決めてやるということなのか。ここで意見を求めて、私たちが何か言ったらしないとかそういうものなのか。

○石山主幹兼指導主事

進めたいと思っています。

○児玉委員

こういうのは、どこから決まってくるのかなと思う。例えば2学期制にするとかそういう時も、教育委員会で意見をもらって進めたという経過がある。例えばこういう協議会にするんだけど、提案として出されてきて私たちがそれについて議論するのか、それとも進めるんです。というところで、納得できないところがあるのでお聞きしたところでした。あと、校長先生たちに話を進めていると思いますが、どの程度考えているのか。というのが1点と、それによって逆に学校運営がしにくくなることはないのでしょうか。

○石山主幹兼指導主事

校長先生については、今年研修してきたのが、校長先生の視察もあったわけですが、教育研究所の機能を生かさせていただいて、校長先生の部会と先生方の全員が参加できる研修会を設けて、これが学校運営に弊害がないのか、本当に学校で必要となっていくことになるのか、ということを、講義含めてワークショップで話し合いの場を設けてきてやってきました。はじめてみないとわからないところが当然あると思うんですけれども、これを始めることで、学校運営がしにくくなるということには持っていけないように、していきたいと、それはこの場でこうだから絶対そうなりませんというようには確約できる話でないので、人の動きがあることなので、地域の人の意見をどう集約するかというのは、協議会委員のメンバーを決める決め方から議論していかなければならない。

○板坂教育長

今、法的には努力義務とされているが、ゆくゆくは義務化になる動きがある。それを踏まえてコミュニティ・スクールを進めようということです。

○児玉委員

それは良くわかるんですが、そういうのが必要な地域と、例えばこういう地域では河北みたいな地域では、ほとんど学校のことにに関して、他人事と思っていませんよね。各地域の人がいて、そういう中であって、

わざわざ何で学校運営協議会を起さなければならないのか、ずっと疑問に思ってた、こういうのは、都会とかそういうなかなか学校に目を向けないみたいなそういったところの人たちを引き込むような、そういうものなのかなと思っています。だとすると、わざわざ、今の学校評議員制をもっと機能させていくのではなくて、協議会を起さなければならないものなのか、というところが疑問です。

○石山主幹兼指導主事

コーディネート業務はやっていないので、それはこの協議会で生かしたい。

○矢作生涯学習課長

そのことで、法整備を将来的には進めていくことがあるんですが、生涯学習との関連で国の交付金事業が関係し、紐付きの制度となっており、国からの縛りが厳しくなってきた状況があります。

○児玉委員

こういうのを進めないと交付金が見込めないということか。

○矢作生涯学習課長

制度に合わない町持ち出しが増えてくる。

○石山主幹兼指導主事

地域の教育素材だけでなく、例えば、校種間連携とか小学校間連携とか、こういったコーディネート業務も担っていただきたいと思っております。例えば、今年、幼保小連携で石垣校長がコーディネーターを務めた。そういったことを校長先生ではなく、コーディネーターにお願いしたいと思っています。これから、そういった連携が増えてくると思う。

○板坂教育長

校長から学校経営を説明して、まずは承認をいただく。校長が推薦して教育委員会が任命することになるが、校長の協力隊としてともに行動していただける委員を選出することになる。

○児玉委員

これから必要なことではありますが、そのための中身を、より地域にあったように作り変えていくという方向で進んでいるということですね。

○石山主幹兼指導主事

はい、そうです。

○板坂教育長

主幹から説明あったような、予定で進め、令和3年度に各小学校と中学校がそれぞれコミュニティ・スクールになるということです。

○板坂教育長

ほかに質問ありましたらお願いします。

貴重なご意見たくさんいただきましてありがとうございました。

4 その他

5 閉 会

○大泉課長補佐(兼)管理係長

これをもちまして、令和元年度 第1回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後3時15分